

第4回東部中学校区学校活性化協議会 議事録（要点筆記）

日時：令和6年7月11日（木） 19:00～20:32

場所：機殿小学校 多目的室

出席者：

【委員】森下幹也 神部智広 長谷川友子 小川祐治 丹羽菜穂美 ◎浅井重久

横井富夫 中川和洋 中川直樹 野呂昌美 山路紀子 野林恵利子

松本なつき ○佐藤順晋 岡田賢一 松本祐輔 和田文剛

伊達隆 楠堂晶久 菊森実成 川口みほろ（学校長代理） 尾崎佳広 橋本恵美子 中西知子

（◎会長 ○副会長）

【教育委員会】事務局次長 金谷勝弘

教育総務課 学校活性化推進室長 北畠和幸

教育総務課 学校活性化推進室主幹 清水尚美

教育総務課 学校活性化推進室主任 地主博一

【市議会】奥出かよ子 西口真理 山本芳敬

欠席者：西村洋

傍聴者：市地域づくり連携課職員2人

1. あいさつ

会長

本日は、意見聴取会で出された様々な意見について、協議していただく。

今後は、準備部会の中で細かく整理をしていくことが大切になる。

皆様の協力のもと、議事を進めていきたいと思う。

公開について

会長

本日の協議会は、「公開」で進める。

（異議なし）

2. 意見聴取会の報告について

報告：事務局 資料『意見聴取会での主な意見』（資料1）

・6会場での意見聴取会では、統合の是非を問うような意見はなく、統合後における子どもたちの通学環境や教育環境を心配するような意見が多くを占めた。

（追加報告）

・朝見小学校については、統合時に教室が3つ不足する見込みであるため、令和7年度の夏休み前後の期間中に、増築する計画。

- ・スクールバスについては、バス会社などにご協力いただき、運行ルートや停留所候補地などの確認作業を進めている。
- ・スクールバスの待機場や駐車場不足については、学校周辺の土地所有者にご協力のお願いをしている。
- ・校名については、協議会にて「変更する」との方向で進んでいるとの認識。ただし、意見聴取会（朝見会場）でのご意見もあったことから、本日の協議会で改めて協議・確認をしていただきたい。
- ・今後の流れについては、8月下旬に開催される予定の「松阪市教育改革推進会議」での報告、「松阪市教育委員会定例会」での議決をもって、正式決定の形を取っていきたい。

会長

報告について、何か質問はないか。

（質問なし）

3. 協議事項

（1）規約の改正について

提案：事務局 資料『東部中学校区学校活性化協議会に関する規約』

- ・第2条（3）「準備部会」に名称変更
- ・第6条 「謝金」を追加

委員

第4条に「任期1年」とあるが、いつまでなのか。

事務局

令和5年11月1日に協議会が発足したことから、任期は令和6年10月31日までとなります。

会長

規約の改正について、異議はないか。

（異議なし）

（2）準備部会について

説明：事務局 資料『準備部会の構成及び協議事項（案）』（資料2）

資料『準備部会 名簿（案）』（資料3）

資料『スケジュール（案）』（資料4）

（追加説明）

- ・部会によっては、統合校Aと統合校Bに分かれて協議をする場合がある。また、協議内容に応じて関係者を入れる場合がある。
- ・スケジュールについては、協議の進捗状況等で前後する可能性がある。

会長

準備部会について、質問はないか。

委員

意見聴取会では、「統合するなら、より良い学校にしてほしい。」という意見がたくさんあったと思う。

学校づくり部会では、統合校のカリキュラムや小中連携教育等を決めていくことになると思うが、そこで決められたことが保護者や地域の意向と違った場合であっても、報告を受けるだけになるのか。

事務局

学校づくり部会では、保護者や地域の皆様としっかり情報共有を図ることにより、保護者や地域の意向とかけ離れたものにはならないよう進めていきます。

次長

教育委員会も支援をしながら、学校づくり部会で決めていきますが、保護者や地域の方々が「それは違うのではないか。」となる場合には、変えていかないといけないと思います。

委員

学校活性化協議会では報告を受けるだけなのか。それとも、承認をするプロセスがあるのか。

事務局

最終的には、学校活性化協議会で承認していただく形になります。

例えば、総務部会で校名の決定方法を決めていただき、それを学校活性化協議会で承認していく流れです。

委員

スケジュールを見ると、次回の学校活性化協議会が3月に予定されている。8か月先になるので、承認するのであれば、途中で話し合う必要があるように思う。

事務局

進捗状況に応じてスケジュールは変更していきます。

大きな決定として、まずは校名があると思いますが、最も遅くなったとしても開催は3月だと考えています。たくさんの方が早期に決まってれば、前倒して開催していくことになると思います。

委員

こちらの意見が言えるような形に、必ずしてほしいと思う。

私より専門的な人を準備部会に入れてよいのか。

事務局

協議内容に応じて、関係者の出席を求めることもできるようにしています。

委員

総務部会での協議内容には、「跡地活用」などもある。地域づくり連携課も参加していただけるのか。

事務局

準備部会からの要請があれば、参加を要請していきます。

委員

準備部会の協議内容の中に、地域行事についての記述が見られない。例えば、地域の盆踊りは、学校でも練習をしてもらっているが、「学校が統合されたらどうしていくのか。」ということを協議できるのか。

次長

学校行事と地域行事が連携している部分も多いので、学校づくり部会等で考えていく必要があると思います。

統合することによって、地域の行事が無くなることがあってはならないと思います。

委員

現在でも、学校と地域が行事の調整をするのは大変なので、4地区が調整するのはさらに大変なことだと思う。例えば、学校づくり部会の中に、学校運営協議会から出ているメンバーを入れておいてもよい。会議が増えることになるが、そんなこと言っている場合ではない。

事務局

学校づくり部会に学校運営協議会の方が入っていただいていると、全ての協議に出席していただく必要が出てきてしまいます。協議の内容に応じて、スポットで入っていただくのが良いと考えています。

委員

令和8年2月ぐらいには全ての協議を終えて、実際にスクールバスに乗ってみたり、通学路を歩いてみたりするなどの確認が必要だと思う。

そのためにも、協議できることから詰めていけるよう、タイムスケジュールを組んでもらうのが良い。

事務局

閉校式典以外は、可能な限り協議を前倒ししていきたいと考えています。

委員

委員の皆が頑張ってくれるので、大丈夫だと思う。

委員

学校運営協議会でも、「教職員の働き方改革」がよく議題に上がる。準備部会によって、先生方の業

務が増えるのではないかと心配している。準備部会に向けて、加配などの対応が必要なのではないか。

次長

「統合加配」は2年間あるので、どの2年間に活用するかについて、慎重に判断していきたいと思います。

学校づくり部会を日中に開催するなど、教職員の負担減に努めたいと思います。

委員

現在在校中の子どもたちに悪影響が出ないようにしていただきたい。

会長

準備部会について、異議はないか。

(異議なし)

(3) 校名について

説明：事務局 資料『統合校の校名について(案)』(資料5)

(追加説明)

- ・統合校の校名の方向性については、これまでの協議で正式に決めた形跡はない。
- ・協議会では「変更する」との方向で進んでいるとの認識だが、改めて協議・確認をしていただきたい。

委員

教育委員会からは、「対等の統合でいく。」と聞いていた。自分自身もそのつもりで動いてきた。もし案2(校名を変更しない)になるのであれば、協議が元に戻ってしまうことになるので、案1(校名を公募する)で良いと思う。

何年後かに1つの小学校になるのであれば、「東部小学校」になる可能性が高いのではないかと思う。だとすれば、個人的には、「東部北小学校」「東部南小学校」のような名前で良いのではないかと考えている。

公募をしても、名案は出にくいのではないかととも思う。

事務局

ご提案いただいたような、2つの小学校が対になるような校名であれば、将来的に1つの小学校になる時に、名前が付けやすいとは思いますが。

協議会で「公募しない。」ということであれば、そのような形を取ることもできないことはないかもしれませんが、公募をした結果「東部北小学校」「東部南小学校」となるかもしれません。

委員

公募するのであれば、ぜひ子どもたちにも公募を取ってあげてほしい。

事務局

公募の詳細については、準備部会で決めていただきます。先行事例を参考にすると、東部中学校区にお住まいの方、お勤めの方、出身の方など、東部にゆかりのある方に限定して募集することもできます。それに加えて、小中学生にも案を出してもらいます。

委員

余談だが、「東部中学校附属第一小学校」はどうか。

事務局

どちらが第一かを決めていただけるのであれば、それも可能かとは思います。

委員

公募する場合、東部地区全体で両統合校の校名を応募する形にするのか。それとも、例えば掃水・漕代地区のみで統合校Bの校名を応募する形にするのか。

公募して「掃水小学校」という校名が出てくるかもしれない。そして、投票することになった場合、人口が多いことで結果的に「掃水小学校」となる可能性もあるのではないか。「掃水小学校」の名前にこだわっている人もいる。

事務局

教育委員会としては、「東部中学校区内に」とすることで、両統合校の校名を応募できることを想定しています。

また、得票数で決めるものではないとするのであれば、「数の多さで決定するものではない。」ということを示す必要があると思います。実際にこのように明示している自治体もあります。なお、他の自治体では、「現在の校名は応募できない。」としている事例もあります。

委員

それが良い。

委員

協議会で「東部北小学校・東部南小学校」という意見が多いのであれば、それを原案にして、「それ以外にふさわしいと思う校名があれば」という公募方法にすれば、よりスムーズに決まるのではないかと。他には「(東部中の前身である) 大平・飯野」という名称も以前の会議で出ていたと思う。

個人的には、校名よりも、カリキュラムや PTA 組織等の方が大事だと思っている。

事務局

総務部会では、ただいまの委員のご意見も踏まえて、ご協議をお願いします。

会長

案1「公募による変更」で賛成という方は、挙手をお願いします。

(挙手全員)

会長

それでは、案1「公募による変更」で進めていき、詳細は総務部会で調整していくこととします。

(4) 令和7年度 新入学児童に対する配慮について

説明：事務局 資料『令和7年度 新入学児童に対する配慮について』（資料6）

委員

資料には「選択できる」という言葉が使われているが、それでは「どちらの学校にも行ける。」となってしまう可能性がある。

これはあくまでも「配慮」である。特別な事情がある場合には、申請書を出していただいて、教育委員会で検討した上で決定する。「そういう配慮はさせていただきます。」というぐらいではどうなのか。

事務局

分かりやすさを重視して、「選択できる」という言葉を使いました。

教育委員会としては、「令和7年度は住所地の学校、令和8年度は統合校」を原則としています。ただ、問い合わせが多く、保護者は切実であると感じたことから、今回検討をお願いさせていただきました。

現在、「松阪市小学校及び中学校の指定の変更に関する取扱要綱」に則り、留守家庭や転居予定等の理由による指定校変更が可能となっています。先程の委員のご意見であれば、保護者から事情を聞かせていただいて、教育委員会で個別に判断するという、従来通りのやり方になると思います。

委員

問い合わせの人数が多いと聞いて驚いた。

子どもの事情によっては、最初から統合校に入学する方が良い場合もあると思うので、教育委員会で判断してもらうのが良い。

委員

教育委員会は、「この協議会が決めた。」とするつもりなのか。

事務局

協議会で決めていただけると有難いと思っています。

委員

これは教育委員会で決めて、該当者に丁寧に説明をしてもらうのが良いのではないか。

事務局

分かりました。

次長

せっかくなので、保護者の方々の意見も聞かせてください。

委員

「環境が変わると心配」という理由は理解できるので、最初から統合校に行けるのは有難いと思う。ただ、個人的には「ラスト１年は、保護者も楽しいことを考えたいぞ。」と思っている。なので、「迷っているなら地元の小学校に行こうよ。」というアピールはしていきたいと思っている。

委員

各学校の校長先生方が、ご自身の学校をしっかりとアピールしてもらったらよいと思う。

委員

地域行事も大事。

事務局

いただいたご意見をまとめると、入学校の選択を認めていく形ではなく、保護者から個別にご相談いただいて、教育委員会にて個別に判断をしていく形ということで、よろしいですか。

会長

このことについて異議はないか。

(異議なし)

委員

私の地域では、既にそのような家庭がある。また、「いずれ統合すると思うので、下の子は向こうの小学校に入学させよう。」という保護者も既にいる。

ただ、やはり「地元で生まれ育った子は、地元の小学校に来てほしい。」という思いはある。

4. その他

委員

学校間の交流について、以前に説明を受けた程はされていないように感じる。特に、ペア校以外との交流については、予算が付いていると聞いたこともないし、子どもから話を聞いたこともない。

令和７年度だけでは、足りないと思う。交流の予定は、しっかり組まれているのか。

次長

学校長とも、再確認したいと思います。予算面についても、話を詰めていきます。

学校長（西黒部小）

掃水小学校と漕代小学校は、ペア校＝統合校なので問題ないと思います。西黒部小学校は、ペア校である朝見小学校とは、全ての学年で一度交流を行いました。また、東黒部小学校の校長先生とは、「今

年度中には何とかやりましょう。」という話はしていました。

委員の話を受けて、年度内に機殿小学校との交流も考えていきたいと思っています。

学校長（機殿小学校）

予算にも限りがあるので、オンラインを活用した交流も進めていきたいと考えています。